

MUNI
PROJECT

社長×副社長 母屋の思い出を語る！

来年春の完成を目指して進む、本社社屋と母屋の改築・建て替え工事。今月は母屋を中心に、材木屋として活況だった頃の生活の様子や思い出を、社長と大敬副社長に語っていただきました。

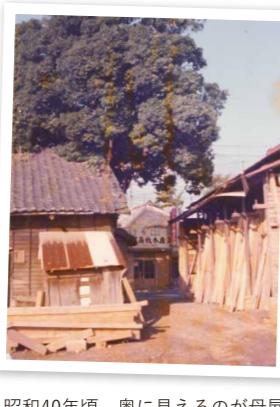
Keiji × Daikei DIALOGUE 社長の思いは形を変えて受け継がれる



現在改修中の母屋で生まれ育った社長。思い出が詰まった家だけに、大切に残しておきたいと願う気持ちも大きいです。盛り上がったお話のほんの一部ですが、同席した編集部やのがまとめてご紹介します。

幼い頃から身近にあったとはいえ、副社長自身は住んだことのない母屋の全盛期は未知の世界。対談は、社長の幼少期の思い出話や、当時の暮らしぶりを聞くことから始まりました。さて、どんなエピソードが飛び出しますか。

仕事と生活の場が一体になっていた、商人の家庭



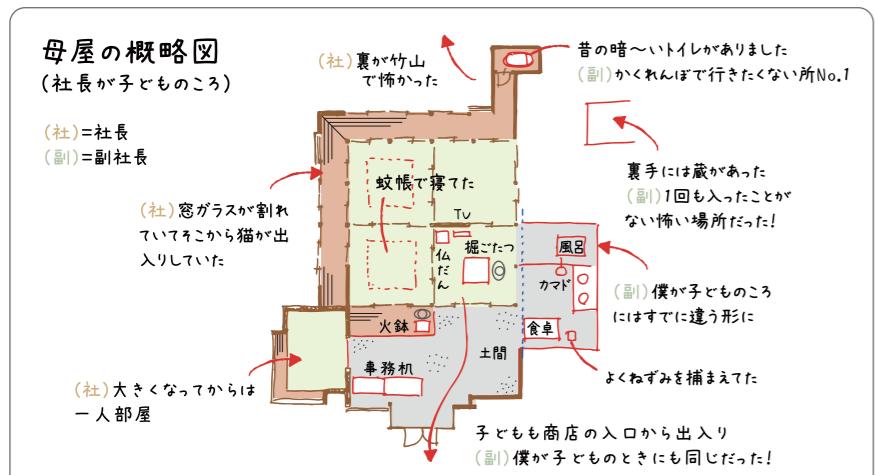
副社長 母屋の改築も大分進んで、新しい姿が見えつつあるけど、社長が子どもの頃はどういう風に使われていたの？

社長 私が小学生だったのは昭和40年代で、いわゆる日本の高度成長期。材木の商売も順調で、いつも大勢の職人さんが出入りして活気があったよ。成島商店のドアを入れるとすぐ土間にになっていて、事務机が置いてあった。正面が小上がりになって、すぐに住居部分になるんだけど、手前には脱ぎの台があって、そこでお袋が一年中火鉢に火を起こして、職人さんにお茶を出していたな。火鉢の引き出しにお煎餅が入っていて、いつもバリバリだったのを憶えているよ。

勉強とか食事はどうしていたの？

上がってすぐの和室に掘りごたつがあって、テレビが置いてあったから、勉強したりテレビを見るのはそこだった。食事は横の土間の台所でした。そこは竈で煮炊きをしていて暖かいからネズミがいて、それを食べに蛇が来る恐ろしいところ（笑）。事務所も家も一緒みたいなものだから、子どもたちも職人さんと同じ商店のドアを使っていました。

副社長 僕も小さい頃は家に入るのに商店のドアから出入りしていたけど、社長が子どもの頃の名残なんだね。



地域ぐるみで支え合う暮らしが、当たり前だった時代

副社長 当時はほかの家も同じような造りだったのかな。

社長 近所はほとんど農家だったけれど、家は同じようなものだよ。土間と大きな和室、縁側あって、庭がある。隣り合った庭はつながっているから、よその家庭を通って小学校に通っていたんだ。冬になるとそこの

お爺さんから焚火の中に入っていた石をもらって、手袋をはめた手を温めながら走って行った。

隣近所がみんな顔見知りだからできることだね。町内会のほかに子ども会というのもあって、上級生が下級生の面倒をよく見ていた。自転車の乗り方とかザリガニ釣りの仕方とか、みんな上級生に教わったんだ。子どもの日に催し物をしたり、小正月にはどんど焼きの手伝いをして、お小遣いをもらつたこともある。

どんど焼きは僕の小学生時代もあった。神社じゃなくて小学校のグラウンドだったけど、昔は大人も子どもも、地域で支え合って暮らしているという実感が強かったんだろうね。

父親が新しもの好きだから、東京オリンピックの時に、真っ先にカラーテレビを買ったんだよ。そうしたら、近所の人がみんな、見に集まって来るわけ。特にプロレスは大人気だった。

力道山とか？まさに映画『ALWAYS 三丁目の夕日』のものだね。

そうそう。「こいつ本当に血を流して！」なんて。商売をしていたということもあるけど、ここは何かと人が集まる場所で、それが子ども心にも楽しかった。だから、古くなつても壊したくなかったんだよ。今回の改修で、また人が集まる場所になつたら、本当に嬉しい。

人が集まり、街を元気にする場所にしたい



左から小学生時代の社長、三男信司、母君子。

副社長 ご近所の人だけでなく、僕の子どもの頃から親戚みんながよく家に集まっていたよね。

社長 親父とお袋が、そういう育て方というか、暮らし方を心掛けていたんだよ。結局、兄弟3人が今もここに揃っている。商人の家だから、仕事も暮らしも分け隔てなく、地元のつながりを大事にすることが一番、と自然に影響を受けたんだと思う（笑）。

僕も昔からいとこがたくさん近くに住んでいて、大家族みたいで楽しかった思い出があるんだよね。そんなことも、一人暮らししていた東京からこっちに戻って一緒に働くと考へた理由の一つかもしれない。

家族や親戚はもちろん、気心の通じた人たちと普段から関わり合って暮らすことが、より良い仕事につながるということなんだね。家づくりや街づくりの仕事を40年近く続けてきて、心からそう思うようになったよ。

子どもの頃、当たり前のように商店の入口から行き来していたけど、昔は働くことと暮らすことがすぐ身近だったからだと、改めて実感したよ。意外と今の自分の中にもそれが浸透している気がする。今回の母屋と本社の改修で、その良さをまた活かせるといいいな。

そうだね。大事なのは見かけを新しくすることだけじゃないからね。色々な思いを持った人が集まって、暮らしと街を元気にする原動力になる、そんな場所にしていきたいね。

なるほど、社長の思い出は、家づくりや街づくりへの思いにつながっているんですね。これから母屋と本社がどう変わらるのか、ますます楽しみになってきました。（やの）



職人紹介 Shokunin File

ナルシマの職人としてもう20年。采女棟梁は繊細な手仕事で抜群の腕前を發揮してきました。小学校時代から絵や工作が好きで大工に憧れ、高卒後は家具デザインの勉強もしたという経歴が、今の仕事ぶりにつながっているようです。



23歳の時に柏市の工務店に弟子入りしたのが、采女棟梁の大工としてのスタート。「周りがきれいだと仕事も丁寧にできる」と、一貫して現場の清掃には気を遣ってきました。仕事に集中している時は強面ながら、話し始めると笑顔が素敵。細部まで妥協しない性格の故か、「こうした方が良いですよ」と現場で提案をすることもあるそうで、良い家にしたいという気持ちがお客様にも伝わるのでしょう。完成時に直接ありがとうございますと言われることが多い、お手紙をいただいたことも。「やっぱり嬉しいですね」と言う恥ずかしそうな表情に、腕前と人柄が表れています。

棟
采
女
直
資
(52)

Shokunin File.07
Naosuke
Uneme

趣味は自宅に据えた薪ストーブ。
冬を楽しみながら
休日は薪割りをしています。



複雑な木組みに合わせて細工も慎重に。



ここ数年「削ろう会」という伝統技術を究める団体の全国大会に出場して腕を磨いているそう。（左／修業時代から使っているカンナとノミ。右／細かな仕上げに使うカンナなど愛用の道具の数々。）



Instagramで
#木のはこ成島商店
をつけて作品を投稿していただくと
ホームページでも紹介されます。



皆さまの投稿をお待ちしております。
成島商店のインスタアカウントはこちらです。

▼▼▼
@kinohakozaimoku

お申し込み方法
木のはこLINEを登録済みの方は
今まで通りにご予約できます！

初めてご予約の方はこちらのQRから
木のはこLINEへつながりますので
お友達追加をしてお申込みください。

ざいもく屋(有)成島商店 HP /
木のはこ予約申し込み方法



LINE申し込みができない方は
左記にお電話ください。

Ki no hako
ざいもく屋の木を楽しむかんたんDIY
木のはこ
木の香りに癒されながら「つくる」を楽しみましょう

クラシカルな雰囲気のあるカシワバアジサイリースをつくります。お庭で咲いている花の姿は爽やかで美しいですが、リースにするとまた違った魅力が出てきますよ。梅雨のひとときを、ゆっくり楽しめましょう。

梅雨も楽しい、手づくりのおすすめ
カシワバアジサイのリース

7/9(土) 13:30~15:30
※午前は開催なし

予約制
参加費
2,000円
(税込)

時間が経つと白い花が少しずつ色変
わりをしていきます。それもまた美しい
です。一緒に楽しみませんか？

※仕入れ状況により花材が変更になる
場合があります。

サイズ
直径18cmくらい
※画像は一年前に制作
したものとなります。



毎月
やってます～
ひのき&すぎのアロマポンポン作り

7/23(土)
13:00~15:00
予約不要

DIYワークショップ
木のはこ
ざいもく屋(有)成島商店
会場 取手市駒場 2-14-12
0120-885-119

桧や杉のかなくずでつくる「アロマポンポン」
1個100円で何個でも製作可能。
直径8cm~12cmくらいです。
※ホームページで開催の確認をしてからお越しください



お持ち帰り用の袋を
ご持参ください。